

## 第4回登別市史編さん委員会 協議概要

日 時：平成29年9月20日（水） 午後1時30分～

場 所：市役所第4会議室

出席者 委 員 出席8名、欠席2名

事務局 4名

### 1 協議結果

#### (1) 諸報告

ア 「市民による地域の昔を語る座談会」について

今年1月から行っている「市民による地域の昔を語る座談会」について、当初開催予定の14地区すべてを6月までに終了することができた。

座談会を開催したことで、各地区の昔の様子を知ることができたほか、昔の様子を知る方を把握することができ、地域の出来事等についての確認が容易にできるようになったことが成果であると考えている。

現在は、座談会を通して聞き取りした内容やその他の内容について参加者などから個別に聞取調査を進めている。

(委 員)

座談会は貴重な資料となっていくもの。これらは公開されるものか。歴史的な資料としてどのように残し、どのような活用を図っていくのか。

(事務局)

座談会当日に録音した音声記録を基にテープ起しを行っているところである。

公開については、市民から要請のあったものは公開を原則とするが、個人情報等の問題もあり、公開については配慮が必要と考えている。

(委 員)

座談会の開催は、市民みんなで作る市史という目的に添った事業であり、一部の人だけで市史を作るのではないということが明確になり、大変良かったと思っている。

(委 員)

聞き取りは1回で終わるということは少ない。ここから色々と派生してより良い情報源となったのではないか。

イ 「登別市史編さんだより」の発行について

昨年11月から発行している「登別市史編さんだより」が、市広報紙平成29年10月号に折り込む最新号で4号を迎えた。

これまでに発行した登別市史編さんだよりの内容についての問い合わせ等が合計7件ありました。

ウ 市広報紙への連載記事の掲載について

「写真で語る昔の話」と題して市広報紙平成29年8月号より連載を開始した。

写真を一枚掲載し、その出来事について簡単に紹介するものである。

8月号 市制施行（昭和45年8月1日）

9月号 はまなす国体バドミントン競技（平成元年9月18日）

10月号 登別東IC開通（昭和60年10月9日）

登別室蘭IC開通（昭和61年10月18日）

エ 石碑に関する情報収集について

石碑に関する情報収集について、一部の所在確認が難しい地点を除き一定程度終了した。現在も個人宅の軒先にある石碑等について情報が寄せられることがあり、今後も市内現存の石碑数は多少増加することもある。

馬頭観世音の石碑や石仏が多いこと、地神塔と呼ばれる五角柱の石碑に刻まれる神々の名前が日本書紀や古事記などに記される神々の名前とは多少違っても草かんむりを付けていることなどから、馬に対する感謝の念と豊作を願う当時の人々の強い願いが感じられた。

オ 現在の取組状況について

(ア) 作業年表の作成について

年表に記載している事項について、日付確認等を新聞記事などに基づいて行っている。この作業が完了した後は、市公式ホームページでの市の年表の公表を行いたいと考えており、その作業も並行して進めている。

(イ) 有形無形の資料収集について

個人への聞き取り調査の継続と有形の資料の収集について進めている。

最近の成果としては、日露戦争に出征した兵士への慰問袋や、戦闘中に捕虜となった兵士を気遣ってやり取りした手紙を確認できたほか、萱野茂二風谷アイヌ資料館で「(通称)金成マツノート」を拝見してきた。

(委員)

金成マツノートは、登別の貴重な財産だと思うので、ゆくゆくは登別に戻ってきてほしいという希望がある。

(事務局)

金成マツノートについては、金成マツがそのノートを金田一京助に渡したときに「研究資料として貸したものが自由に使ってほしいと渡したものが今となっては判然としない」との問題があり、単純に金成マツの書いたものだから登別に還してほしいということにはならないであろうと思っている。

現時点では、当該ノートが大切に保管をされており、また、専門家による研究も進められている。ノートにユカヲを記録した金成マツがどのような活用のされ方を望んでいたのかなどを踏まえて保管される場所などを考えていく必要があるものとする。

(委員)

文化財の保護は難しい問題がある。大英博物館の展示物の中には植民地から英国が持ち帰ったものがある。これ等は原則として元の国に返却されるものだが、文化財は「大切に扱うことの出来ないものであり、保存や保管がきわめてむずかしいものである」ということから適切に保管ができる場所で厳重に保管される必要がある。その上で、その資料の利活用の方法について検討される。

そのため、文化財は基本的に「返せ、返さん」というような感情に流されることで財産の行き来があってはいけないと考える。大切に保管をして守ってくれたことに対する敬意も当然必要だろうと思う。

(ウ) 原稿の執筆について

節ごとに原稿の執筆を始めた。一定程度書き終わった部分から関係資料を添えて、委員に記載内容の確認を願う予定である。

(委員)

いよいよ原稿執筆と言うことになってくるが、これは傍から見ると机に座って筆を走らせるだけに見えるが実は大変な作業である。

一から順番に書き進めるのではなく、比較的書きやすいものや資料が集まったものなどから書き進めていった方が良いと思う。執筆をすすめていくなかで悩んで病気になった人を幾人も知っているので、くれぐれも身体に気を付けて頑張ってください。

## (2) 協議事項

### ア 協議結果

新登別市史の刊行形態について5種類を例示し、それぞれのメリット・デメリットについて説明した。また、資料編への収録が想定される資料の一覧を示した後、質疑応答を行い、次回までに委員ごとに考えをまとめることとなった。

### イ 協議概要

#### (事務局)

市史の刊行形態について、「すべて冊子版」「冊子+CD-ROM」「本編CD-ROM+概略版冊子」「すべてCD-ROM」「電子書籍」の5種類が想定される。

冊子版では、本としての存在感や前後のページを参照する際に便利であることがまずはメリットとして挙げられる。その一方で、予算の制約などからカラーではなく白黒の中での資料説明などとなり、わかりやすい資料説明がしづらいことがデメリットとして挙げられる。

CD-ROMを取り入れた場合は、例えば地図上で実線・点線による表現だけではなく線の色を変えるとといった説明が可能となる。そのほかにも音声データの収録が活用となるなどのメリットが考えられる。その一方でCD-ROM版の場合はパソコン操作に不慣れな方の利用についての懸念があり、また、電子書籍ではストアによるサービス提供が中止され読めなくなるとのデメリットがある。

今挙げた事項以外にもそれぞれのメリット、デメリットがあり、どのような刊行形態が良いか判断に迷うところと思うが、委員の意見を伺って刊行形態を決定していきたい。

また、資料編への収録を検討している資料については、現時点で想定されるものを記載している。一覧の中にアイヌ分野に関するものを記載していないのは、収録しないということではなく、収録できる資料を検討しているためである。どのような資料が収録可能となるかなどについては、精査した後に改めて委員会でお示ししたい。現段階では、山田秀三・知里真志保が作成した幌別町のアイヌ語地名に関する地図の収録について現在管理されている方との協議を始めており、前向きな回答をいただいている。今後は詳細を詰めていく必要がある。

#### (委員)

資料について、近頃は紙媒体ばかりではなくCD、DVDなども多くなってきているが、データの保存について耐用年数などを含めていくつかの難しい問題がある。市としてデータ化した資料の保管方法はどのよ

うに考えているのか。また利活用にあたっては、どのようなものが便利なのか、活用方法も考えながら決めていった方が良いと思う。

(事務局)

市では、明治時代の文書である村治類典の電子データをCD-Rで保管しているが、耐用年数の関係から数年ごとに焼き直して保管することとしている。今回の資料編で収録したデータについても長期間保管できるように管理方法を検討していきたい。

(委員)

資料をクラウドなどで保管することはどうなのか。

(事務局)

資料保存などの技術は日進月歩であり、その他の条件も踏まえてその時点において最良と思われるものを選択する必要がある。

クラウドやCD等での保管は一長一短があるため、どのような選択肢があるのかを含めて検討していきたい。

(委員)

山田秀三、知里真志保の「室蘭・登別のアイヌ語地名」について、地図ばかりではなく本文自体も実現できれば良いと思うが、それは可能か。

(事務局)

本文等の全面掲載については、著作権など慎重に検討する必要があるものと考えている。

(3) その他

ア 市史編さんの担当部署が総務グループであったのが、新設された市史編さんグループに移管になったことを報告する。

イ 市史編さん専門員に今年度より新たに小坂博宣が加わったことを報告し、同氏より自己紹介をする。

ウ 社会教育グループから市郷土資料館で「石碑が語る地域の歴史」を開催中である旨を委員に周知する。